

SNK 成長の歴史

新日本空調は、ウィリス・キャリア博士が発明した『空調 (air conditioning)』から始まります。米国キャリア社が、1930年 (昭和 5年) に当社の前身である「東洋キャリア工業株式会社」を設立、その後、1969年 (昭和 44年) にその工事業部門から分離独立して、「新日本空調株式会社」としてスタートしました。「技術のキャリア」として、世界を席卷した高い技術力とパイオニア精神は創立時から現在に脈々と受け継がれています。新日本空調グループは、ナレッジとテクノロジーを活用することにより、「快適・最適な空気」という目に見えない価値を届け続けることで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

完成工事高
2024年度：137,684 百万円 (連結)

沿革

- ◆ 米国キャリアコーポレーションと提携 東洋キャリア工業株式会社創業
- ◆ 東洋キャリア工業株式会社の工事業部門を分離独立し、新日本空調株式会社 (SNK) 設立
- ◆ 工学センター開設 東京証券取引所市場第二部に上場
- ◆ 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定 技術研究所・茅野研究所開設
- ◆ 連結決算スタート
- ◆ 新日本空調工程 (上海) 有限公司設立
- ◆ SNK (ASIA PACIFIC) PTE. LTD. 設立
- ◆ SHIN NIPPON LANKA (PRIVATE) LIMITED 設立
- ◆ 新日空サービス株式会社設立
- ◆ 新日空 (香港) 建設有限公司設立
- ◆ 新日本空調株式会社 設立50周年
- ◆ SNK ASIA PACIFIC VN CO.,LTD 設立
- ◆ 日宝工業株式会社の全株式を取得

施工実績・技術開発

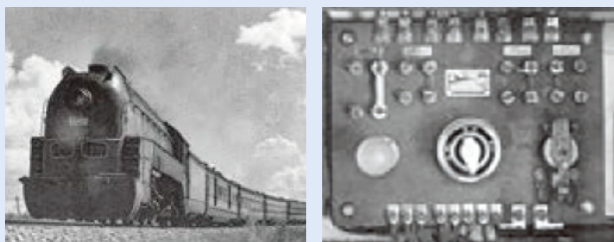
- ◆ 世界初の全列車空調 南満州鉄道特急「あじあ号」
- ◆ わが国初の超高層ビル「霞が関ビル」に空調施工
- ◆ 初のBWR実用炉原子力発電「敦賀原子力発電所」に空調換気施工
- ◆ わが国初の屋外冷房装置「オアシスタワー」の設置
- ◆ 当時世界最大規模の複合ビル「ラッフルズシティ」の空調施工 (シンガポール)
- ◆ 江戸東京博物館の空調システム施工
- ◆ 「沖縄美ら海水族館」の空調・衛生施工
- ◆ 「東京ミッドタウン」の空調施工
- ◆ わが国初の超高層ビル「霞が関ビル」のリニューアル空調施工
- ◆ 「マリナーベイ・サンズ」の空調施工
- ◆ 「熱源最適制御システム (EnergyQuest®)」の開発
- ◆ 東京ミッドタウン日比谷の空調施工
- ◆ 微粒子可視化システム「ViEST®」の開発
- ◆ 「東京ミッドタウン八重洲」の空調施工
- ◆ EnergyQuest® Cloud ファミリの提供開始

1930 創業期 1969 分離独立から発展～バブル時代 1989 上場後の大競争時代～経営改革推進時代 2009 新たな企業価値創造時代 2024

社会課題とSNKの提供価値・強み

空調のパイオニアとして日本の産業の成長・発展に貢献

高温多湿な日本に当時なかった「空調」という概念を持ち込み、産業の発展や保健衛生上の必要性を訴えた。世界初の全列車空調施工、世界初の全船空調施工や日本初の超高層ビルの空調をはじめ、地域冷暖房、原子力施設、クリーンルームなどのパイオニアとして、日本の産業興隆期において重要な役割を果たした。



(左)世界初の全列車空調施工(南満州鉄道特急 あじあ号)、(右)あじあ号空調用自動制御盤

サービス志向の高まりと社会インフラへの貢献

分離独立しても実力が発揮できるとの見極めから工事業部門を分離・独立し、新日本空調株式会社を設立。人々の活動を支える空調の一つとして、わが国初の屋外冷房装置「オアシスタワー」の設置、戦後の大気汚染問題に対し新宿新都心地域冷暖房施設の設計・施工、わが国初のBWR (沸騰型原子炉) 型原子力発電所の空調施工を実施した。



日本劇場前に設置された「オアシスタワー」

事業領域の拡大と成長分野への投資、新たな技術の開発

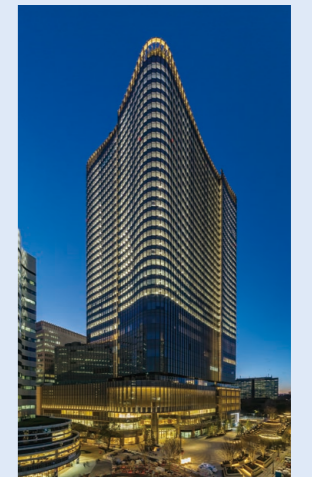
東証一部上場をきっかけとして設立した技術研究所 (現 技術開発研究所) において、クリーンルームの品質向上のニーズが高まり、微粒子可視化技術を開発。また、江戸東京博物館 (東京都) では省エネルギー性、レイアウト変更にも容易に対応できる空調システムにより、空気調和・衛生工学会第 10 回技術振興賞を受賞した。



江戸東京博物館

社会課題への対応、サステナブルな社会へ

東日本大震災をきっかけに広がった省エネと防災意識の高まりを受け、熱源最適制御システム (EnergyQuest® Cloud) や柔ワイヤ工法®などを開発した。また、東京ミッドタウン日比谷 (2018 年竣工) では、震災時等のインフラ途絶時にも帰宅困難者のための環境を維持できる高 BCP 性能を確保した魅力ある施設となっており、熱負荷変動に応じた最適制御や、自然エネルギーを利用した環境に対する配慮を追求した建物となった。



東京ミッドタウン日比谷